

リニア建設 促進決起大会 3項目を決議

1面つづき 決議された項目は、▽リニア中央新幹線の新線開業による経済効果を最大限発揮させるため、名古屋・大阪間の工事を速やかに着工するとともに、一日も早い全線開業を実現すること▽基本計画および整備計画に示された「三重・奈良・大阪ルート」を前提とした、ルートおよび駅位置を早期に確定すること。そのため、概略ルートおよび駅の概略位置を早期に確定すること。特に、ターミナル駅については、新幹線などの広域交通結節点にふさわしい交通アクセスや周辺まちづくりに関する検討に十分な時間を要することから、一日も早い着工を実現するため、早い段階から協議・招請を行うもの三つ。

今後は、三重・奈良・大阪ルートを前提に、奈良、三重県内の駅位置の早期確定、終着予定候補地とされる現新大阪駅の



大会決議を前にあいさつする松井知事



大阪トッププランナー育成事業

在り方の検討について、各府県の自治体とJRが連携し、実務的なレベルで協議を急ぎ進めていくことになる。

大阪府の松井一郎知事は「リニアは国の成長戦略を遂行する上で極めて重要な社会基盤。一刻も早く環境影響評価の手続きを始め、奈良市付近を主要な経過地とした基本

建設関連で2社認定

『大阪トッププランナー育成事業』に、新たに10プロジェクトが認定を受けた。写真。建設関連では、HR（大阪市西区、網島弘幸社長）の「エコミッド地球温暖化対策を大阪発で広めていこう」と、エイトライン（大阪市北区、杉本雄作社長）の「建設会社とダンクのマッチングで建設業を活性化が認定された。同事業は2014年度にスタート、大阪市都市型産業振興センターの支援の下、新たな需要を創出する事業の立ち上げをサポートしている。

11日に大阪市内で開催されたプレゼンテーション会で大阪市経済戦略局の吉川正晃理事は「全市を挙げて伸びる事業を後押しし、応援していく。日本をけん引する企業となってほしい」とエールを送った。

建設ソリューション研究会 大阪は11月1～2日



「現地視察型」で全国で6回開催する

タナベ経営（大阪市淀川区）は、建設業経営者や後継者、事業部長クラスを対象とした現地視察型セミナー「建設ソリューション成長戦略研究会」を東京、大阪などを会場として開く。

タナベ経営

テーマは「建設を極め、建設らしくない」を追求する一で、これから取るべき戦略や、働き方を含めた人材戦略、ストックマーケット、i-CONSTRUCTIONなど、ポスト2020に向けたソリューションを創造する合計6回のセミナー。

第1回は9月28・29日に東京会場、第2回は11月1・2日に大阪会場で行い、2018年7月25日までの期間で毎回違った地域で、合計6回出席することで新しいコンストラクションカンパニーを実現する六つのコンストラクションモデルを体感できる。会費は6回分1人当たり39万円（税別）。

詳細は同社ホームページ参照。問い合わせ先は大阪本部 電話06(7177)4001。

農水省

兵庫県に基盤整備要請 備など協力

農林水産省はあす14日、兵庫県に対し、農地中間管理機構と基盤整備事業の連携強化などを要請する。

土地改良法などの一部改正により、農地中間管理機構が借り入れている農地について、農業者の費用負担や同意を求めず

に基盤整備事業が実施可能となる。

このため、農地中間管理機構と基盤整備事業の一層の連携強化、同機構による担い手への農地集積・集約化の加速化や、農業委員会の活動を推進するための報酬の上乗せを可能とする条例の制定について、農林水産省の山北幸泰審議官が兵庫県庁を訪れ、荒木一聡副知事に要請する。

民間人事

◇ヒューリック(1日) 経営企画部長(総合企画部副部長) 宮山一輝